

「なごや介護予防・認知症予防プログラム」にかかるQ&A（令和2年7月20日時点）

No	区分	Q	A
1	【多い質問】 プログラム全般	プログラムの内容を全て行わなければならないか。	原則としてプログラムの内容に沿って行っていただく想定ですが、高齢者の状況によって柔軟に対応して下さい。高齢者の状況によって、初日からプログラムに参加できる方がいれば、最初は見学から始めて徐々に参加していく方もいると思います。6か月後には全員が参加できることを目標にして、できない分野ができるようになったときは頑張りを認め合いながら、改善することの喜びや生きがいを皆と共有することを目的とするものです。また、このプログラムは1日約2時間で行っていただくものになっているため、サービスの時間の枠に余裕があれば、このプログラムに追加して各事業所でオリジナルの内容をプラスいただくことも可能です。
2	プログラム更新時	6か月以降更新の場合、どのようにプログラムを実施すればよいか。	更新の場合、第1クールに戻り、繰り返しプログラムを実施します。 ただし、第1クールの事前アセスメントの省略、利用者の状態に応じたプログラム内容の変更など、プログラムの目的・趣旨に沿った形であれば、柔軟に実施していただくことも可能です。
3	【多い質問】 栄養 (調理実習)	調理実習はどの程度の内容を計画したらよいか。	プログラムの目標に沿っていれば、事業所の可能な範囲の中で計画いただくことで差し支えありません。また、調理実習については、実施が難しい事業所向けに、グループワークを代替案として示しています。
4	【多い質問】 アセスメント	クールの途中で参加する場合や、欠席した場合はどうしたらよいか。	原則その日に行うプログラムを参加者全員が行います。欠席した日や途中参加のために、行っていないプログラムがあっても個別に対応いただくことは想定していません。一方、各事業所において、時間や体制に余裕があれば、個別に対応いただくことも可能です。ただし、欠席したプログラムが後日実施するプログラムと関連する場合は個別の対応が必要となります。

No	区分	Q	A
5	【多い質問】 その他	クールの途中から新規依頼があった時の対応はどうしたらよいか。	クールの途中からも参加できます。また、クールの途中から参加いただいた場合、次のクールを1クール開始としてカウントいただくこともできます。【途中参加の日数+1クール（3か月）+1クール（3か月）を最大利用期間とする。】
6	プログラム全般	提供時間は2時間を超えてもよいか。	このプログラムの提供時間は約2時間となっておりますが、各事業者のサービス提供時間の枠と高齢者の状況から、プログラムをゆっくり行っていただいても構いませんし、逆に時間が余るようであれば、各事業所でオリジナルの内容を追加することも可能です。
7	プログラム全般	問診票は毎回記入しなければならないか。	プログラムを安全に行っていただくために、原則として毎回問診をしていただき、利用者の体調を確認して下さい。
8	プログラム全般	予防専門型と一体で運営していく場合、要介護者も同じ内容で進めていってよいか。	プログラムの内容から予防専門型の方も取り組める内容と判断できる場合は、同じ内容で進めていただくことも可能です。
9	アセスメント	チェックシートはマニュアルの様式を使用しなければならないか。	プログラムで示したアセスメントの項目が入っていれば様式は問いません。また、項目を追加いただくことも可能です。
10	アセスメント	アセスメントの測定はスタッフ一人が複数の利用者に対して同時に行ってもよいか。	アセスメントは極力集団で実施できるよう配慮しています。TUGや2.4m歩行速度はタイムを測定するため個別の対応が必要となりますが、集団で実施できるものについては、実施することについて差し支えありません。
11	アセスメント	認知検査として、長谷川式やMMSEなどを行ってもよいか。	長谷川式スケールやMMSEは専門的な検査であるため今回のアセスメントからは外していますが、プログラムに示されたアセスメントを行っていただいた上で、追加で行っていただく部分については支障ありません。
12	アセスメント	アセスメントの保存方法や評価方法を教えてください。	利用者に対して個人カルテを作成いただき、アセスメントもカルテの中で個人情報として保存していただくこととなります。また、アセスメントの結果については、数値から状況変化を把握いただき、利用者へわかりやすくお伝えください。

No	区分	Q	A
13	アセスメント	本来の1クールとなる期間よりも前から参加している方のアセスメントはどうしたらよいでしょうか。	アセスメントを実施いただく必要はありませんが、本人の希望や状況によって実施いただくことも可能です。ただし、本来の1クールとなる期間から実施いただくアセスメントが評価の対象になります。
14	栄養 (調理実習・試食会)	「名古屋めし」の試食の弁当代や調理の材料費は自費でいただくのか。	利用者が負担することを想定しています。
15	栄養 (試食会)	「名古屋めし」に馴染みがない方はどうしたらよいか。	必ず「名古屋めし」でなくてはならないものではありません。また、「名古屋めし」をいただきながら、それぞれの出身地域の食事と比較して、古い記憶を語っていただいてもよいかと思います。また、どんな内容のお弁当でも「お弁当」をキーワードにすれば語っていただくことが可能かと思われま。
16	栄養 (試食会)	食事は提供していませんが、「名古屋めし」は実際に食べなければなりませんか。また、どこの配食サービスに頼むのか。写真で「名古屋めし」は駄目なのか。	お弁当が難しいのであれば、試食という形でもよいので、目的にあるように皆で食事をする機会を持ってください。福祉会館のモデル事業では、参加者と相談し近くのお弁当屋さんや百貨店でお弁当を購入していたようです。また、区内の配食サービス事業者に公平に注文するのもよいと思います。
17	栄養 (調理実習)	調理実習をするにあたって、保健センターに申請をする必要はありますか。	参加者が自ら調理し食べるので、販売等の営業には該当せず、保健センターへの申請は必要ありません。
18	栄養 (調理実習)	調理実習を行う場所がありません。	調理実習は台所や調理場で行っていただくことは想定しておらず、室内のテーブルで作業していただける内容としています。ホットプレートで調理したり、電子レンジで加熱する際は、職員が代理で行っていただくこともあると考えます。